

もっと真剣に 議論せよ！

世界同時不況が続いています

深刻な世界同時不況が続いています。日本では先日、昨年10月から12月にかけての実質国内総生産（GDP）の速報値が発表され、前期比で3.3%のマイナスという大幅な落ち込みを記録しました。特に海外への輸出や販売に依存している自動車や電機などの製造業の生産が大幅に減少しています。これまで日本経済を牽引してきた自動車など製造業の落ち込みは、雇用を始め日本経済全体に大きな影響を及ぼしています。

今回の不況は、日本だけではなく、世界的な規模の大きな問題です。

先日ローマで開かれたG7（主要7か国財務相・中央銀行総裁会議）では、この危機的な状況を乗り越え、世界同時不況から脱出すべく、各国は協調して財政出動など政策を総動員することで一致しました。またアメリカでは、オバマ大統領の掲げる景気対策法案が上下両院で審議され、紆余曲折を経て17日オバマ大統領が署名して成立しました。

日本では、昨年10月に第一次補正予算、今年1月に第二次補正予算を成立させました。いずれも緊急の経済対策です。また現在来年度予算と様々な税制上の優遇措置を盛り込んだ税制関連法案を審議しています。

しかし、日本の場合そう簡単に話は進みません。現在日本の国会は、衆議院が与党、参議院は野党が過半数の議席を獲得しています。そのた

（裏に続きます）

め衆参両院の意見はしばしば異なり、とても重要な法律案がなかなか成立しない状況にあります。また審議においても、野党は相変わらず審議拒否や引き延ばしを繰り返し、予算や法案の審議を妨害しています。そしてさんざん審議拒否や引き延ばしをした挙句野党は決まって審議時間が足りないと主張します。これでは、かつての野党とまったく変わりません。果たして本当にこのような国会で良いのでしょうか？

言うまでもなく、国会は議論をする場所です。議論をし、議論を重ねて必要な法律を作り、諸問題を解決するための場所です。しかし現在のように野党が無駄な引き延ばしを繰り返すことは、まったく国民の利益につながっていません。与党の法案や政策に反対であるのならば、堂々と国会の場でそれを主張すべきです。

景気対策はスピードが重要です。今回の景気対策法案でもアメリカは与野党が激しく意見対立し、野党共和党はオバマ大統領の景気対策に反対しました。しかし、景気対策が迅速に実行されることが大切との認識は与野党ともに共有しており、景気対策法案の審議と採決は極めて集中的に短期間の間に行われました。翻って日本はどうでしょうか？

景気対策のための第二次補正予算は1月に成立しました。ところが、予算の財源を裏づける予算関連法案は参議院で野党によるサボタージュのため未だ採決が行われていません。来年度予算の審議においても同様です。野党は何かと理由をつけて審議を拒否し、審議と採決の引き延ばしを行っています。野党は貴重な時間と貴重な国民の税金を無駄にしています。果たして今本当にそんなことをしている場合でしょうか？

日本は今本当に危機の中にあります。国会に、政治に求められているのは、私たちの生活を安定させ、将来に希望と安心の展望を示すことではないでしょうか。国会での真剣な議論を強く望みます。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市神奈川区反町1-7-1

TEL:045(323)6000

FAX:045(323)2974